

そういえば、去年のこの報告の書き出しは「♪夏が来れば 思い出す♪ 今年も8月の第一週の土曜日」というものでした。そして今年も8月の第一週の土曜日、また学術集会のプログラム企画や概要もほぼ決まったものになり、運営も安定してきました。いつも通り、M-800教室での口演ならびに7~8階学生ラウンジでのポスター発表(ポスターはその後1週間、掲示され続けます)でした。また、共催している川崎医学会では、ランチタイムにランチョン形式の総会を実施しました(これもそろそろ定着してきたかな?)。皆様ご協力ありがとうございました。



口演会場の様子

そして、今年度も抄録集はタブレットやスマホでも閲覧できるように川崎医学会で提供するとともに、川崎医学会誌第40巻の補遺号として刊行いたしました。

さて学術集会では、例年、表彰をしています。今年度も研究委員会メンバーが中心になって、採点の結果、以下の先生方が受賞されました。

- 最優秀発表賞：桑原 篤憲 先生(腎臓・高血圧内科学) (代理発表：庵谷 千恵子 先生)
- 最優秀ポスター賞：橋本 謙 先生(生理学1)
- 優秀発表賞：村上 龍文 先生(神経内科学)
- 同：玉田 勉 先生(放射線医学(画像診断1))
- 優秀ポスター賞：塩谷 昭子 先生(消化管内科学)
- 同：大植 祥弘 先生(呼吸器内科学)
- 同：小野 公嗣 先生(解剖学)



でした。

この副賞も例年、川崎医学会が担当しています。今年も、サポテンです!! 最優秀賞はちょっと豪華な感じですし、優秀賞は、電磁波を吸収してくれるサポテンだとか! 皆様、サポテンの花言葉の一つに「燃える心」があります。益々研究に向けて、情熱を注いでいただけましたら幸いです。

今年度の特徴の一つに、研究センターからの発表がありました。今回は、医用生物センターの三上氏が、業務の紹介に加えて、今後の方向性などをわかりやすくご提示いただきました。川崎医科大学の研究は、9つあります研究センターの職員の皆様の基盤となるご努力の礎のもとに展開されて、今回も多く報告されたように世界に強く発信できる研究が醸成されていております。それを考えても、こういった機会に、研究センターの内容を教職員が掌握理解して、さらなる研究の円滑な発展に双方で貢献していきたいものです。

さて上述しましたが川崎医学会ではランチョン総会を昨年度より設けました。それまでより多くの会員の先生方が集まってくださって非常に嬉しく思っております。特に今年度は、学園外のバーカーショップからの2つのセットのサンドイッチ/パンを準備することができ、殊の外好評で学研究会や学内の今後の集まりなどでも発注してみたいとの声も聞かせていただきました。また、例年通り、川崎医学会賞の受賞講演も設けました。奨励賞受賞の城所 研吾 先生(腎臓・高血圧内科学)は留学中にて後日ご発表頂くことになりましたが、医学会誌論文賞の鎌尾 浩行 先生(眼科学

1) と山下 哲正 先生(乳腺甲状腺外科学)にそれぞれ論文内容を中心に、今後の発展性なども含めてご発表いただきました。今後の乳癌の治療の発展に大きく寄与する内容と、そして学術集会のひとつ半月後にニュース報道されたiPS細胞を用いた網膜再生の話題で、非常に興味深く聞かせていただきました。

ここ数年で、川崎医科大学の研究体制はプロジェクト研究費に特別推進枠を設け、大学として国際的に

鎌尾先生・眼科学1



山下先生・乳腺甲状腺外科学

川崎医学会 平成26年度 ランチョン会員総会のお知らせ

平成26年度川崎医学会会員総会を以下の予定で開催いたします。第3回川崎医科大学学術集会のランチョン形式です。会員の皆様、奮ってご参加ください。

平成26年6月2日(土) 11:30~12:40 @校舎棟8階 M800教室

ランチボックス(もちろん無料)・ドリンク付きで開催します。

Set A Set B

今年も、両会場に特別の「嵐が来た!」のメニューをご用意しています。Set AとSet Bをお選びいただけます。是非ご参加ください。

平成26年度川崎医学会賞授賞講演も実施します。交流会とあわせて、16:30~17:05

川崎医学会 論文賞 表彰ラウンジ
鎌尾 浩行 先生 (眼科学1)
山下 哲正 先生 (乳腺甲状腺外科学)

川崎医科大学校舎 学術集会 会場 校舎棟8階 M800教室

川崎医学会ランチョン総会



発信すべき研究に潤沢な費用を授与することも開始されました。また研究センターの運用や、私学助成による研究機器の購入などに関しても、中央研究部が中心となって、効率的かつ円滑な運営になるように努力されております。さらには、産学官連携や特許申請などについても、大学としての支援体制も充実してきており、全国的な医系産学連携協議会であるmedU-net(代表校:東京医科歯科大学)の会員として、その利点を活かしてBioJapanなどにも出展をすることも試みられます。川崎医学会も歩調を合わせて、機関紙を再び、和文誌と英文誌に分割し、査読制度も充実させてきております。

川崎医科大学教職員の皆様、川崎医学会会員の皆様、さらなる熱情のほとばしるままに、本学からの研究の発展に一層の努力を致しましょう。

口頭発表の先生方

毛利先生

桑原先生 (代・庵谷先生)

山辻先生

三上氏 (医用生物センター)

砂田先生

日野先生 (代・原先生)

松田先生

↑センター職員発表

村上先生

松崎先生

高山先生

玉田先生